

さくら通信

平成21年3月8日

No.15

発行者：下関深坂さくら友の会 下関市横野町1-13-1

TEL:083-258-3277 FAX:083-258-3234

E - メール: hibiki-lc@gold.ocn.jp

HP: http://members3.jcom.home.ne.jp/shuzo3/sakura/



2月6日臨時作業

2年前に友田川仮植場に植えていたさくらの苗木を掘り上げて深坂の森に移した。2年の間に随分大きくなつた。流石に畠地だけあって成長が早い。13人が参加しました。作業終了後は、

ライオンズの事務所で、さくら新聞発送の作業をしました。



2月8日桜植樹

2月6日に掘り出した苗木と補充した苗木を、深坂の森に植えました。枯死したり、育ちが悪いものの代替です。作業は黙々と進められていますが、一見無粋に見えるオジイチャン達の心のうちには、ここに桜が一杯咲く日の光景や、そこで自分の名が冠された桜を見出した人の喜ぶ顔を想像しているに違いない。

この日、記者が注目したのは、左のニューモード。足元に注意。すねに

フットウォーマーのようなものを着けてある。登山用品らしいが、保温にも、また足を守るのもよさそう。



2月22日臨時作業

友田川仮植場で新たな苗木50本の植え込みをしました。2年前は、永く放置されていたため、笹が茂っていて開くのに大変だったが今回は全く状況が違う。また作業も前回の経験があるので、要領よく運んだ。参加者6人。2時間で作業を終了しました。

研修会報告2題

NPOになると、いろいろな研修会などへの参加や、他の団体との交流促進が求められます。2月には二つの研修会

に参加しました。

「協働わいわい研修会」

2月7日下関市民活動センター出行われ3名参加。そのほとんどは既にさくら友の会では行われていることであった。作業後、その日のヒヤリハット事故の報告会をするというのは参考にしようと思う。



「市民大学教養講座」役に立つリーダーシップ

2月9、10日ボランティアグループのリーダーの役割について学んだ。あまり目新しいものはなかった。「賞賛などの言葉によるメンバーへの報酬。」「仕事の段取りを決めておく。」などが耳に残った。講座の講師が市大の教授であった。市大の学生グループと一緒に活動ができれば良いと思う等と報告された。

“さくらえ”甘党に朗報

「さくらえ」は4月5日(日)午前9時～午後1時30分頃までの間、下関深坂

投稿

自然の森イベント広場において開催されます。昨年「第1回さくらえ」は試行錯誤しながら実施し、特に有力な支援者のお陰で有終の美を飾ることができました。本年も昨年の実績を踏まえつつ新しい趣向が展開されます。…それは、当会会員交流部会の企画による初の試みとして『無料ぜんざい』先着順100人様を接待することになりました。会員の皆様、一般の方々もご期待の上、ご家族お揃いでのご参加をお待ちいたしております。是非ご賞味のほどお願い申し上げます。

俳句の募集もあります。ぜんざいで舌鼓を打ちながら一句ひねるとは、何と優雅なことではありませんか！！できたての俳句を応募していただきたいと存知ます。なお、ぜんざい無料接待所付近に「さくら友の会入会受付所」と「さくら募金箱」を設置します。

(副会長 上畠政利)

深坂の森のデザインコンセプトを作ろう (シリーズ1)

深坂の森のあの部分をこうしたいというアイデアが、色々出されるが、みんながそれに賛成できるかというとそうでもない。

深坂の森を愛する人にはいろんな人がいる。桜を愛する人ばかりではない。紅葉を愛する人、多種多様な樹木を愛する人、山野草を愛する人、野鳥を愛する人、昆虫を愛する人、トレッキングを楽しむ人。散歩を楽しむお年寄り。幼児を遊ばせるお母さん。その人たちの色々な思いこそが深坂の森の価値を高める源泉ではないだろうか？

アイデアを出し合い、市や周辺住民などとも意見を交換しながら、息長くデザインコンセプトを作り上げ維持発展させていかねばならないという思いが高まっています。

その勧め方についての提案や、具体的なアイデア、夢をお持ちの方は、その思いを広報部宛に投稿ください。

(広報部長 野口周三)

投稿募集
桜や、深坂の森、さくら友の会に関する皆様のご意見、想いなどを寄せ下さい。(400~600字)

予定

第6回定例会 5月17日(日)9時00分
深坂自然の森、森の家において
1時間の講演のあと作業を予定しています。